



精 進

H30. 7. 20

1学期も本日終業式を迎え、明日より「夏休み」となります。皆それぞれに色々な計画を立てていることと思いますが、せつかくの長期休業ですので、しっかり目標と目的をもって今後の飛躍につながる生活を意識してください。

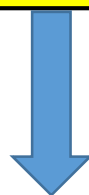
生活面での注意事項は「夏休み中の生徒心得」をよく読み、一人ひとりが鹿工生として責任ある行動をとること。

3年生は非常に慌ただしい時ですが、「進路実現」は最重要目標であり、集大成と言っても過言ではないと思います。何事に対しても丁寧に、謙虚に取り組んで大きな成果を上げることを目標に邁進してください！

今回は、「四知」という教えを紹介します。明日からの夏休み、是非参考にして過ごしてください。



し ち 知 < 天知る 地知る 子(し)知る 我知る >



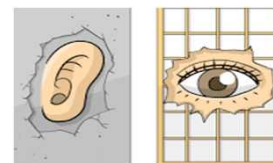
これは中国の後漢書の中にある「楊震(ようしん)伝」という書物の中に書かれている教えです。楊震という人物は、後漢の官僚で、当時の最高位である三公にまで昇った人物です。後漢は側近政治の悪弊が蔓延し、賄賂(わいろ)が横行した王朝でした。この話も、そうした賄賂に関係した話です。



楊震が地方の太守に任命されて任地に向かう途中に立ち寄った場所で、その県の県令王密が夜、楊震の宿舎に尋ねて来ました。王密は以前楊震の部下だった人物で、その当時目をかけてくれたお礼ですとあって、楊震にお金を渡そうとしました。(賄賂です)

楊震はこれを断りますが、王密は、「夜分のことですので、私にここにやって来たことも、誰にも知られることはありません。外に漏れることはないですよ。」とあってなおも渡そうとしました。それに答えた楊震の言葉がこの四知です。「あなたは誰も知らないと言うが、そんなことはない。天が知っている、地も知っている。なにより私も知っているし、あなたも知っているではないか。何事もこの四者が知らないということはないのだ。」と断ったそうです。ここでいう子(し)とは、相手のことです。

日本にも「壁に耳あり障子に目あり」ということわざがあります。隠し事をしようとしても、どこで誰が見たり聞いたりしているのかわからないという意味です。



いずれも、「バレる可能性があるからやめる」というような消極的な行動ではなく、「人が見ていようと見ていなかろうと、いいかげんなことをせず、人として正しい行動」を心掛けてください。

「見て見ぬふりより、助けて助けてないふり」という言葉もあります。私自身も心掛けたいと思っています。自分が人知れずに頑張っていることや、良いことは、「広める」のではなく、「広まる」のだと考えましょう。だからこそ、日常生活が全ての基本であるとも思います。明日からの夏休み、これらのことも忘れずに事故や怪我等なく、有意義な時間を過ごしてください。2学期始業式、全校生徒元気にスタートをきりましょう！

先日行われた、創立110周年記念講演の中で、清原伸彦先生(日体大名誉教授)のお話にもあったように、高校での三年間は人生においてとても大切な時であることを忘れないこと。

また、「集団行動」は何故できたか → 皆が理解でき、その気になったからということでした。心・技・体のバランスを意識して、自分が持っているもの、あるものを大事に、どんな小さな事でも良いから、誰にも負けないものを身につける。時間の使い方を考えながら、今後も成長していきましょう！

- ・見える実力(知識)を身につける
- ・見えない実力を身につける
→ 人に対する思いやり、助け合い
- ・行動は、やらされているうちはダメ！
- ・余裕のある人間は、伸びない！